

## 審判員派遣報告書

1	派遣事業名 平成30年度全国高等学校総合体育大会 (インターハイ2018)	2	派遣期日 研修 7月29日～7月31日 本戦 8月2日～8月5日
3	報告者名 仲地祥吾	4	派遣先 愛知県 一宮市 小牧市

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	平成30年度全国高等学校総合体育大会 (インターハイ2018)	大会期間	研修 7月29日～7月31日 本戦 8月2日～8月5日
大会内容	研修会: 座学・コート研修・モデルゲーム 本戦: 各県代表によるトーナメント戦(1～4回戦は2PO)		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	8月2日	市立船橋-佐賀北	R	土門氏(山形)	市立船橋が終始リードし、大差で勝利した。
2	8月3日	足羽-津幡	U	漆間氏(東京)	津幡が要所でシュートを着実に決め、勝利した。
3	8月4日	北陸-飛竜	U	原田氏(鹿児島)	終始接戦であったが、最終クォーターに北陸がリズムを掴み勝利した。
4	8月5日	大阪桐蔭-明星	U	太田氏(愛知)	序盤、明星がリードするも、終盤に逆転し、大阪桐蔭が勝利した。

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
	<p><b>【研修会】</b>          ○現在3POメカニクスで求められていることは<b>ベーシックメカニクスの徹底とクルーワーク</b>。          [3POメカニクス]  <b>Timing of rotation</b>          ・リードのノッキングは審判の本能→ノッキングしそうな時は思い切ってローテーション。          パスが返ってきても焦らない。3POは常に逆サイドにrefereeがいるので、パートナーを信頼する！          ローテーションを中断すべき時          ・クイックドライブ・クイックショットはローテーションを中断。但しミドルラインを越えていたらローテーションを完成させる。          ・ポストプレー(バックラン: センターが背中にDefをかかえて1on1をしている状況)はローテーションを完成させる。          ・ショットクロックが5秒を切っていたらローテーションを中断。Newリードが大変。          ・センターライン付近でディフェンスの激しいマッチアップがあった場合、Cは中途半端に行かず、ボールを見に行く。          →リードが早めのローテーションで気を遣ってあげる。</p> <p><b>Open angle/Position adjust</b>          ・クロスコールは判定の精度が落ちる。→見えているようで見えていない。(Point of contact POC)          ・100%見えるものはリードからクロスしても良い。但し、タイミングはCに預けてから。          ・オープンアングルで探すもの → オフェンスのつま先。          ・プロテクトシューター F4の確認 ①foot ②foul ③floor ④fake</p> <p><b>Crew work</b>          ・ラストショットの確認は原則オポジットサイドの審判が担当。→他の人が出しゃばらない。          ・4.9秒以下はボールサイドに関係なくCが担当。          ・審判同士のコミュニケーションは簡潔に分かりやすく。Good「○○さん、今のは絶対にノーカウントです」Bad「今のどうですかね？」          ※年齢、経験、主審・副審に関係なく、正しいことを共有することが大切。OOBのHelpは素直に受け止めて訂正。          ・「分からなかった」ということも大切。          ・レポートに行っているときに選手からアピールがきた場合は「ちょっと待って、後で聞くから」などとコミュニケーションをして、<b>あえてゆっくりとコール</b>をする。→チームメイトが引っ張ってってくれるときが多い。</p> <p>まとめ          今回の研修で強く感じたことは、現在上級審判に求められていることは特別なことではなく、ベーシックメカと分かりやすいプレゼンであると感じた。また、研修会の雰囲気も講師と研修生が一緒になって考えを出していくという雰囲気、日頃から悩んでいることや困っていることを素直に聞くことができた。この雰囲気は香川県の研修会でも広げていかなければならないと感じた。今回、研修と本戦を通して、多くの事を学ぶ事が出来ました。派遣に際し、ご理解とご支援をくださった香川県協会の皆様、本当にありがとうございました。</p>